

桐 雷

編集発行 第9号
 群馬県立桐生工業高等学校
 同窓会事務局 編集部
 群馬県桐生市西久方町1-1-41
 TEL 0277 (22) 7141
 印刷 湯浅印刷有限会社



特集

支部拡大

全国に

同窓会長 五十嵐健雄

行きつりのよそのよき子の
 七五三 (富安風生)

初冬の訪れを感じる今日この頃、同窓会員の諸兄には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

何時も同窓会の活動に格別なご尽力を賜り誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

桐雷九号の発行に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

本同窓会は支部の設立と活動の充実化を目指して鋭意努力して参りました。この度、関西支部の皆さんの大変なご尽力により、新春には名古屋を中心にした中部支部、引き続き静岡県を網羅した静岡県支部が二十四番目の支部として設立を見る事が出来ました。誠に慶ばしき事でございます。改めて関係各位の同窓会員に深く感謝し厚く御礼申し上げます。

今回の会報は、各支部の活動状況をご案内申し上げる特集号とさせて頂きました。

会員とのより強い絆を持つための定時総会には新装成った桐生市市民文化会館に去る

六月二十八日、百五十名を越える会員の参集を戴き、特別記念講演には前同窓会長佐藤富三氏による桐生織物史下巻を纏ってもらいました。

恒例になっているゴルフコンペには第六回目を迎えて百六十三名が去る八月二十日、赤城カントリークラブで個人戦、支部対抗戦を行いました。先輩後輩入り乱れての喜々とした交歓は同窓会ならではの感を深く致しました。

学校との絆をより一層強めるべく援助活動をも行っております。五月一日の開校記念日には卒業生である足利工業大学教授の蟹江好弘先生の記念講演の幹旋、産業教育フェアへの参加費用の援助、海外研修の為の生徒と先生への資金援助、全国大会へ出場のスポート選手への激励等々。

同窓会の運営に当たり過分なご尽力を戴いている学校と事務局を預かる先生方、それに先輩諸氏の変わらぬご援助に厚く御礼申し上げます。

支部以外の会員諸兄の益々ご健勝の内での活躍と更なる交流交歓が促進されます様に祈念しご挨拶と致します。

桐 雷 第 九 号

発行にあたって

二十一世紀への展望

校長 加藤 通 顕

晩秋の候、同窓の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度は、桐雷第九号が「支部特集」として発行されるとのこと、皆様の奮闘の奮闘ぶり

と本校同窓会の偉大な力を垣間見させて頂いた気がします。母校の教育に携わる我々としては、ますます先輩方に続く立派な生徒を育てねばと肝に命じる次第です。

さて、その母校の近況についてですが、皆様の物心両面にわたるご指導、ご支援により全ての生徒が、二十一世紀を担う技術者としての自負をもちつつ切磋琢磨しており、指導に携わる教職員も彼等の夢の実現に向けて努力しております。

例えば、多岐にわたる彼等の進路目的を実現させたいと願う対応をしております。

約六割の就職、約四割の進学希望者の目標達成を目ざし、大幅に選択教科を増加しました。その中には、他学科学習も可能にしましたし、バブル崩壊後の状況に鑑み「安全管理技術」教科を全国で始めて開設しました。(この為には、

関西支部・非破壊検査社社長山口多賀司様の大きなご尽力をいただいております。) また、生徒の個性に応じ、例えば学級を分けて授業する適応学習を数学・英語・専門科目に導入し、より肌理細やかな指導の徹底を図っております。

次に、大きく豊かな人間に育てて欲しいと願い、より多くの経験を積ませております。その顕著な例が、外国人との触れ合いです。県内に来訪している外国人を招待、交流したり、生徒を海外へ派遣させてもおります。ニュージランドでホームステイを始め

て三年目となりました。本年の夏には、教員二名が中国の二校を訪問し、将来の生徒交流の礎を築いてきました。以上の如く、教職員と生徒が一体となった努力により、

その成果も除々に見えてきました。

本年十一月に前橋で開催される「全国産業教育フェア」に於いても、県内・外から本校に対し大きな期待が寄せられております。

部活動も、ここ数年やや寂しい思いをしてまいりましたが、昨年あたりより活気が除々に出てまいりました。生徒も往年の桐工に一日も早く戻りたいと頑張っております。

以上、本校の近況の一端を記しましたが、これ等はみな、同窓各位のご支援の賜と思っております。

終わりに、日々の母校に対するご厚情、ご支援に感謝致すとともに、同窓会及び皆様方の益々の発展を祈念致します。そして、今後とも本校在校生の為、ご指導、ご尽力賜りますようお願い致します。



開校記念講演

足利工業大学 工学部

建築学科 助教 櫻江好弘先生

昭和37年機械科卒業

蟹江好弘先生

【少年は夢見て旅立った。そして……】という演題で先生の貴重な体験談・エピソードを絡めて講演をいただきました。

講演の中で「私の人生の中でピカッと光っている時期は高校の三年間です」との話がありました。生徒会長が御礼の言葉で生徒の気持ちを代弁した通り、生徒の心を強く打たれたことと思います。今も続く寒中マラソン・全校マラソン・実習の授業・ユニークな先生方との出会い。そして、高校生活の大半の時間を費したプラン活動で甲子園に応援に行ったこと、校歌の前奏曲の作曲をしたこと等、思い出、多き時代を過ごしたとの話でした。

卒業後、石川島播磨重工業に就職し会社に勤めながら、夜明治大学に通い大学院まで卒業。その間、勤め先では、プラントの設計、建設現場管理等の経験をし、大学・大学院では夢だった建築を学んだとのこと。この様な多くの経験を積み、現在は足利工業大学に研究者として勤務し活躍を続けています。この人生航路、先生の言葉を借りて表現すればコペルニクスの転回を見せた航路は演題にありま



すように、夢を持っていか

県外支部特集

関西支部

関西支部は、平成六年二月二十六日の設立総会以来、早いもので四年目を迎えた。関西在住者一〇六名中七十二名の参加により、近畿二府四県と岡山を含む非常に広域な支部が誕生。加えて平成八年から関西以西の全てを含む方々を対象とし、西日本本格的の尚一層広域化した関西支部となっているが、あいにく会員の増加に繋がらず現在の会員数は六十九名となっている。会員の躊躇に高齢と若齢が多

く次いで遠距離を挙げる方があるが、同窓会活動を活発に魅力あるものしながら再度の入会呼びかけを継続していきたい。一方中部と静岡支部設立に協力できたことは名譽なことである。今日迄、実に大勢の方々が関西支部活動へ

ご参加いただき感謝しているが、途中下車し静岡・中部の活動にも配慮いただくことは嬉しい限りである。翻って、

関西支部最大の出来事は、支部設立二年目の平成七年一月十七日に起きた「阪神・淡路大震災」である。震度七を超える史上最大の直下型烈震に襲われ死者六千人以上、阪神地区に二十兆円以上ともいえる経済損失を与えた。不幸なことに会員の中で、久保田明・乙部亮・柗瀬明正の各氏宅は全焼若しくは全壊。大塚幸男・里見忠巳・橋本健司の各氏宅は損壊という大被害を受けた。支部として緊急役員会を開催し、被害状況調査と救援活動を行うと共に、損傷を受けられた会員にお見舞をお届けした。それぞれは避難先から旧所に近い状態で復帰されているが、物心両面の傷跡は今なお深い。

この震災に教えられたものは「人と人のつながりであることを痛感した。」(今井支部長談) 深いキズナで規約の一つである会員相互の融和がはかれたのではないか。又、この阪神淡路大震災の約二十日後に、ゼネラル石油(株)製造課長茂木行夫氏(S三十七年M卒)が胃ガンで亡くなられた。享年五十二才。余りにも若い死でお子様がなく奥様によって御霊は見守られている。

又、出来事として特筆されることは、今井支部長をはじめ幹事の方々の人柄とご努力によって静かに深くかつ格調高く支部活動が進められていくことであろう。「私達は夢をいたしたくのではなく関西支部と桐雷関西を通じて親睦と融和、協調の意志を貫いて、互いに研鑽し価値ある集団を目指しそれぞれの夢を創り上げたい。」(今井支部長談) からも十分にその意図が伺えるのである。その一つとして、講演会の講師としてお迎えした高名な奈良・薬師寺管主高田好胤師の「心」と題したお話しは大変好評であり、その後の人生生活に大いに示唆を与え感銘を受けたとの会員が多い。更に、薬師寺参拝、法話会参加そして、「白鳳伽藍復興勸進」事業協賛と展開していく。

関西支部設立によって、本部又は他支部との交流が深まって来たことも大きな収穫である。企業・個人の違いはあれ、互いが研鑽・啓発しあい成果を共有できることが出来ればこの上ない。

副支部長山口多賀司氏は、非破壊検査株式会社の社長であるが、同社は平成七年より桐生工業高等学校との交流を



は「人と人のつながりであることを痛感した。」(今井支部長談) 深いキズナで規約の一つである会員相互の融和がはかれたのではないか。又、この阪神淡路大震災の約二十日後に、ゼネラル石油(株)製造課長茂木行夫氏(S三十七年M卒)が胃ガンで亡くなられた。享年五十二才。余りにも若い死でお子様がなく奥様によって御霊は見守られている。

又、出来事として特筆されることは、今井支部長をはじめ幹事の方々の人柄とご努力によって静かに深くかつ格調高く支部活動が進められていくことであろう。「私達は夢をいたしたくのではなく関西支部と桐雷関西を通じて親睦と融和、協調の意志を貫いて、互いに研鑽し価値ある集団を目指しそれぞれの夢を創り上げたい。」(今井支部長談) からも十分にその意図が伺えるのである。その一つとして、講演会の講師としてお迎えした高名な奈良・薬師寺管主高田好胤師の「心」と題したお話しは大変好評であり、その後の人生生活に大いに示唆を与え感銘を受けたとの会員が多い。更に、薬師寺参拝、法話会参加そして、「白鳳伽藍復興勸進」事業協賛と展開していく。

活動の一つとして、四月二十六日(土)に、「早春の京都を歩こう会」を実施した。皇居の御寺・泉涌寺から、宮廷の美術展の開かれていた京都国立博物館までの三キロを、のんびり歩き美術を楽しんだ。秋は金閣寺界隈を予定している。

又、最近ではデイズ二一映画「ヘラクレス」を、一般公開に先がけて映画試写会を実施。老若男女に楽しめるよう用意された作品の前評判もあつてか、家族同伴又は、お子様と親友といったグループもみ

始め、本校教諭を「研修生」として受入れ、日本初の工業高校の非破壊検査講座開設へむけ準備をして来た。本年四月文部省の正式認可があり、平成十一年四月に、いよいよ「安全管理技術」を選択科目として学ぶこととなった。

又、関西支部事務局として中部支部設立の協力をさせていただいたが、「支部活動のほか本校の卒業生の就職活動にも大いに協力できる。」との蟹江支部長のお話は、交流の典型であり目がしらを熱くした。



られた。今迄実施しなかった親睦ゴルフ会も、会員の要望から検討に入っている。アンケートをとり、参加希望者の中から順次開催していく予定である。

映画を楽しみ、歩こう会は健康と休養を、そして講演会では勉強を、と、支部の活動を徐々に広げ、互いの生活に潤いと安らぎ、英気と気概をもつことができるよう頑張つて参ります。大阪での「桐生まつり開催」の夢をもって。

足利支部

平成 5 年 11 月、足利支部として発足した私達の支部も、定例幹事会、支部ソフトボールクラブ、同窓会ゴルフコンペ等に参加させていただく事が出来ました。

平成 6 年には、定時制野球部の全国大会出場の応援に参加するなど多くの活動が行われたが、時間が経過するにつれて、集まるメンバーがだんだん少なくなり、幅広い年齢層の同窓会運営についての困難さを痛感しております。

ゴルフコンペは担当役員の尽力により毎年参加する事が出来、責任を果たしてくれている方々にはお礼を申し上げます。又、本部常任幹事会、総会等に出席していただく幹事の皆様に感謝いたします。私達足利支部は、県外支部としては、本来栃木県支部として発足すべきだと思いますが、かつての通学状況から、足利市の西部地域では大半の生徒が桐生の高等学校へ進学をしていた経緯があります。



その様な状況下、会員も現在は、90%以上が坂西地区に住んでいる卒業生であり、これからは栃木県下全体の同窓生に時間をかけても、呼びかけて行くことが同窓会本部の希望であり、支部の責務と考えております。しかしながら、私達支部の運営は、本部より活動費だけであり、会費の徴収はせず、そのつど必要な会費を出しあって支部運営を行なっているのが現状であり、現在いただいている活動費をプールし、通信費にあてる考えでいるしだいです。足利支部の現況はこの様ななかで活動を進めております

が、他支部全体から比べ役員は、他支部全体から比べ役員は、平均年齢は 50 才前後であります。仕事でも家庭でも、社会的にも忙しく設立当時計画をしていた「桐雷」足利支部 2 号の発行も間々ならず、支部運営に難しさを感じているのは、私達足利支部だけなのでしょうか？

学生時代の楽しい思い出を同窓会を通じて思い出し、一人一人がクラスの仲間の顔を忘れずにいられるような、そんな支部の運営を、会員の皆様と本部、各支部役員のご指導をいただき、栃木支部への発展に向けて進めて行きたいと思っております。

第三回前橋支部総会開催 群馬中央支部へ拡大

予てより懸案であった組織拡大の為、荻野章支部長・松永秀雄・佐藤米三副支部長・慶徳勝正・他常任幹事・初谷幸一事務局長の方々のご尽力によりまして、高崎市・沼田市等からも出席され二十五名の参加を頂きました。七月十二日グラランド・ベルツに於て盛大に開催されました。



た事に感謝申し上げます。荻野章支部長の挨拶に始まり、慶徳勝正幹事の議長で進行され凡ての議事が満場一致で決定され、同窓生が五十五名居る高崎市では新たな地区担当に 26M 卒木村行雄氏が選出されましたので、今後のご協力をお願い申し上げます。佐藤米三副支部長の乾杯で懇親会になり回を重ねた実績と新たな会員をお迎えした事により会話の内容にも味わいがあり又会員の事業にも関係がある方々も有り話題も弾み、和やかな素晴らしい群馬中央支部にふさわしいスタートの会になりました。

中部支部

支部長 蟹江光正

(春日井市 35M)

「故郷は遠きにありて想うものとして悲しく歌うもの」
(室生犀星)。

遠くはなれて生活するものにとつて、故郷からの距離があるほど、望郷の念は人一倍募るものだ。

同窓会中部支部は厳寒の去る、二月二十二日(土)かつてデザイン博の為建てた、名古屋国際会議場で結成総会を行った。愛知、岐阜、三重、福井、石川、富山の六県から二十五名が出席された。

夜の懇親会は親子の年の隔たりを乗り越えて盛り上がり肩を組んで、校歌の合唱となった。卒業して以来、しばらくぶりに感涙に咽んだ。

年々、この絆の和を大きくしていかななくてはと、決意を新たに。名簿外の対象者も、逐次、掌握、連携をとっていききたい。この支部便りとして、次回は「桐

蕾中部」を発売したい。後に続く後輩のため、この地方の礎となる思いを新たにしている昨今である。

『自分の人生目標』

副支部長 大谷武尚

(木曾川町 35D)

「人生の目標は」と問われれば「何々になりたい」「此れ此れの仕事をしたい」といった答えが帰ってくるだろう。

しかし、これは人生における『手段』であって『目標』ではない。問題は「いかに生きるか」ではなく「何のため、なぜ生きるか」が肝要であろう。私は一つの答えとして

「所願満足」と云いたい。未期に生涯を振り返り、その時限りない満足を自覚できたら

これ以上の至福はないであろう。ただそれが自己満足でもよいのか、という問題は確かにある。一つの行動を起し、

その結果があまり芳しくなくとも、適当に満足してしまうのでは残念だ。自分への不満、劣等感等は次への行動の大きなステップとなる。最も人生の大部分を終わりに残された時間のない人間にとつては、それ

を指摘する必要も意味もないかも知れない。

私はまだ若いと自覚している。これからの自分にとってどんな人生があるのか。未知なものへの期待、希望に一抹の不安を抱きつつも。

人間、この世に生を受けた時、既に過去世からの約束事である、今生の使命がある。使命を遂行してこそ『所願満足』といえよう。使命は何かは自ら悟るものであろう。

もちろん問題としている自己満足は大いに、自己批判をしながら生きて行きたいと思う。『所願満足』ということ

を人生の目標とした以上、これからの人生において満足しているかどうかを常に心に問いかねながら、一生懸命に生きていくしかないと思ふ。

究極においての至福の瞬間のために努力していききたいと思う。

「同級生」

幹事 柏瀬勝治

(一宮市 35W)

昭和三十五年の春、桐工を卒業し日本のどこにあるかも知らなかつた就職先の愛知県

一宮市。桜の花の蕾もまだ固い頃、同級生と東海道線の夜行列車で十数時間かけて旅行気分で一宮駅へ降り立った三十七年前。当時の一宮は繊維の好況により、各地から来ていた女工さんが街にあふれていた。高校時代、桐生から外に出たことのない私が途方も無い遠いところへ来てしまったものだと思つた。

言葉はまったくわからず、食べるものも故郷と異なり、外国へ来てしまったような思ひをしたものである。当然ホームシックにもかかり、会社を辞めて故郷へ帰りたばかりであった。一宮駅で東京行きの列車を見ては、涙したときもあった。しかし、そういうときは近くに数人の同級生と励まし合い頑張つた。同時期に就職した十八人の同級生も数年後には六人になつてしまった。やがて転職やら、結婚、仕事の独立と、苦しかったときほど仲間

に支えられ今日がある。独りぼっちであったなら多分挫折し故郷へ戻つていたことと思う。助けられたり助けたり。仲間とのつきあいは三十七年間今も延々と続き、仲間とあれば高校生気分に戻れるのである。

本年春、同窓会支部結成のお誘いを頂き早速、近所の仲間と連携を取り合い、参加した。職場の友は職場を去れば唯の人。同級生、同窓生は永久に同志なのである。また、時折、故郷の頼りしてくれる友、出張の折に立ち寄ってくれる友、これもみな同級生なのである。同級生ありがとうとしみじみ叫びたい。



懇親会にて

静岡支部

相談役 14W 大沢房次郎

去年十月来、母校並び同窓会本部、関西支部の今井支部長より要請を受け、学校より当県内在任の卒業生名簿を送って頂き、設立の準備を練り、広い県内を東部、中部、西部のプロックに分け、発起人の人選に入り、本部を静岡市に置き、三役候補を選出しました。今迄に会った事もない同窓生なので専ら電話で要請、説得にあたり、十三人の発起人が決まり、若く優秀な三役候補と私とで数回下会合を重ね、三回の発起人会の開催をして晴れて四月二十日、静岡ターミナルホテルにて、本部より五十嵐同窓会長、加藤学

校長、中里事務局長、並びに関西より今井支部長、中部の蟹江支部長の御来席を頂き、本県支部十五名の出席を得て、盛大なる総会を開き、ここに立派な静岡支部が誕生しました。当支部は、若く優秀な高草木支部長、行動力、企画

力抜群の野竹、石坂両副支部長のもと、重厚な顧問並びに名理事長の陣容は今後立派な支部に育っていく事を確信します。当支部設立に当たり色々御指導御支援頂いた五十嵐会長、中里事務局長、又、関西支部の今井支部長始め事務局の方々に對し、紙面より心から深く御礼申し上げます。尚桐雷の由来の通り桐生高工（現在群大）とは兄弟の間柄であったので今後共、群大の同窓生各位と交流親睦を計って行きたいと思えます。

支部長 38M 高草木敏夫
静岡支部は昨年、同窓会本部と関西支部の呼びかけに呼応して、発起人諸兄と相談検討を重ねて、晴れて四月二十日、に設立総会を開催致しました。経過については当支部相談役の大沢房次郎先輩よ

りありましたので割愛します。総会の当日、四月二十日は全国的な日本晴れ、諸天も寿くかのような日和りでした。会場は、静岡ターミナルホテル、会員の方達は参々々々集ってきます。また、来賓の方々も会場に到着、いよいよ開会となる。始めに司会より来賓の方々の紹介並びに、祝電の披露があった後、支部設立に致る迄の経過を、大沢発起人よりありました。次に議長を選出した後、議題を審議し、名称の件、規約の件、役員を満場一致の拍手で成立致しました。新役員の自己紹介のあと、代表して私が挨拶させて頂きました。（静岡支部は人数も少ない小さな支部ですが、会員の皆さんが、この会が出来て良かった、明日への活力が湧いてくる会だ、と云える様な支部を皆さんと共に築いてまいりたい。又入会していない人にも、ねばり強く参加を呼びかけていきたい）、という趣旨の抱負を述べました。その後は、来賓の方々の挨拶です。始めに同窓会会長の五十嵐健雄様より、静岡が二十四番目の支部とな

り県外支部も充実してきた。静岡支部の発展を、とのお祝いの言葉を頂いた。次に学校長の加藤通頭様より、桐工の美事な充実、ふりを紹介された後、関西支部長の今井嘉吉様、中部支部長の蟹江光正様よりお祝いの挨拶を頂いた。次に中里同窓会事務局長より、今後の行事予定や、同窓会の現況報告があり、石坂氏の閉会の辞で、一部が無事終了。ここで全員の記念撮影を行う。次に場所を移して、懇親会で。一部の総会が成功裡に修了してホットしたのが、それぞれが、うちとけて会話がはずみ、そこかしこに明るい談



懇親会の様子

笑の輪が広がっていききました。歌も出て最高の盛り上がりでした。最後、校歌を全員で肩を組んで歌った時は、一人一人の胸に、来年も元気で又会おうとの思いを込めて、力一杯歌ったのでした。さあ、これからが静岡桐雷会の船出です。しっかりと帆をはり、とりかじ一杯、いざ出航！
「ここであつたない歌を一首
「ふるさとの
想いをのせて
駿河湾
しずおか丸は
順風、満帆」



記念撮影に収まる
当日の参加者

埼玉県支部

同窓会埼玉県支部を

設立して

支部長 米山 稔(23W)

平成五年七月十日、埼玉県支部設立総会を開催してより、早いもので四年有余の歳月が流れた。在校中の先輩であり何かと指導を頂いていた、五十嵐同窓会長より埼玉県支部設立の要望をお聞きし、微力ながらやってみましょうと、お引き受けした。

「突然失礼いたしますが、桐生工業学校昭和二十三年卒業の米山と申します。同窓生の〇〇さんご在宅でしょうか：



「同窓会名簿を頼りに、埼玉県在住のまったく見知らずの同窓生に、毎晩何人となぐ電話をし、同窓会支部設立の呼びかけをした。

「いまさら、同窓会とやらに付き合うつもりはない。今後一切電話などしないでくれ」と叱られたこともあった。その反面、「わざわざ電話を下さって有り難うございます。協力させて頂きます」と、うれしい言葉に支えられて一人一人同調者が増えてきた。これならば支部設立も出来るかと確信を持った。三月二十四日、四人にて準備会、続いて四月三日第一回発起人会を十二名にて開催、設立総会日を七月十日と決め、本部事務局のご指導を頂き、設立趣意書・設立総会案内を五月二十八日、県内同窓生全員(約四百名)に発送した。

さて、設立総会の当日は、本部より五十嵐会長、池田副会長、中里事務局長・川崎組織部長並びに同窓でもある小林学校長の五名を迎え、出席会員二十七名にて開催され、規約決定・役員選出が行われ、第一回生田村寿男・第五回生荒船貞治の両先輩を顧問に、不肖私が初代支部長の大任を仰せつかり、ここに同窓会埼玉県支部が設立された。

会長よりお祝いと励ましの言葉を頂き、副会長より同窓会の活動状況、校長先生より学校の現状が報告された。続



いて懇親会に移り、自己紹介をしながら過ぎ去った桐工時代を懐かしみ、まさに時の経つのを忘れる楽しい懇親会となり、最後は校歌・桐工数え歌の大合唱をし、次回の再会を約して散会した。

出席者全員の顔に満ち足りた喜びと、頬に流れるうれし涙を見たとき、「ああ同窓会を作ってよかった」といままでの苦労が吹き飛んだ。

あの日から四年、埼玉県支部は順調な活動を続け、総会も今年の三月十六日で五回を数え、その間宿泊懇親会も星野・高瀬・若月諸先生の参加を頂き、同窓生村山賢一氏(30W)の経営する長瀨町「秩父館」二回・赤城温泉・サンレイク草木と計四回、母校授業参観・工謳祭見学、ゴルフ懇親会十一回、会報「とららい埼玉だより」は第七号の発行と、会員の絆を深めております。定時制野球部全国大会出場の激励募金には予定以上の協力が得られ、阪神大震災には関西支部にお見舞い金を送りました。

また会員の提案で、懇親会だけで終わるのは残念なので、



もつと有意義な同窓会にしよう、会員中の吉田幸弘氏(31W)に「気功術」を八年総会・懇親会と二回披露して頂き、原沢健次郎氏(43E)には「おじさんのためのインターネット」と題して、いま流行のパソコン活用の実演講習を今年の第五回総会でやって頂きました。支部会員は多士済々特技の持ち主が多いので、今後この「特別講演」を続けて行きたいと思っています。「青春は還らないから懐かしい、そして、故郷は帰れないから恋しい」この同窓会が親睦だけでなく、お互いの啓発の場であることを期待して、埼玉県支部は会員の協力と役員の熱意により、活動を続けていきます。(H9・6・14記)

平成九年度

総会開催

26支部・148名参加

平成九年六月二十八日、竣工後まだ間もない桐生市市民文化会館、スカイホールにて百名を超える会員の方々が参加され盛大に記念すべき総会が開催されました。

開会にあたり五十嵐同窓会長並びに加藤学校長より挨拶をいただき、五十嵐会長の議長で議事が進行されました。議事は平成八年度事業報告、決算監査報告が承認されたのはじめ、支部活動状況報告では関西支部・第十五支部・



中部支部設立・埼玉支部・静岡支部設立総会が行なわれたとの報告がありました。さらに、平成九年度事業計画予算の提案があり満場一致で承認されました。また、この予算の中には平成九年度に限り、十一月に開催される全国産業教育フェアへの補助が含まれているとの報告もされました。

その他、桐雷九号の発行、第五回ゴルフ大会の日程等の報告がありました。最後に、役員紹介等がありまして、一部総会の幕を閉じました。

続いて、昨年度に引き続き記念講演として佐藤富三氏より「桐生織物の返遷」との演題で講話をいただきました。

(内容を同頁、下三段に掲載させていただきます。)桐生織物の歴史の深さに新ためて興味を覚えました。

その後、懇親会に移り、全国的に広まりつつある、同窓会の先輩後輩、新旧睦ましい歓談がされました。岡部染織デザイン科教諭の首領により、校歌を参加者全員で高らかに歌い、万歳を三唱し、名残り惜しみながら再会を期して閉会となりました。



平成九年度総会記念講演

桐生織物協同組合理事長 昭和17年紡織科卒業 佐藤富三氏

佐藤富三氏

「桐生織物の変遷(後編)」
桐生織物の発展は徳川軍からの旗生地的大量受注、高機の導入、工業制手工業が始まった江戸期が礎になっていると考えられます。当時の桐生人の気性はまじめで仕事が早かつたようです。受注量、生産量が西陣を上回っていたことが、その様子が伺えます。

明治・大正期に入ると、その中から、雄飛した先輩たちが現れました。その功績は外国製力織機・シャカードの導

入、洋風染料の使用、舶来綿糸の使用、万国・内国博覧会への参加、織物輸出の開始が挙げられます。また、桐生の独壇場と思われる技術開発、商品開発も次々と起こりました。紗綾・龍門・縞紗・皇室御用織物・帯・着尺・人造絹糸織物等がその実績です。積極的な会社設立も起りました。

成愛社・日本織物・模範工場・桐生撚糸・西毛整織・共立機業がその主なものです。輸出の出荷額は国家予算の三分の一に相当する程で海外への大飛躍をした時期でもありました。今日のメセナの先駆的な試みも行なわれました。我ら母校、桐工もその一つです。

書上・前原・西田・早川・須永等の先輩方が創立の手助けをしてくれました。明治・大正期が桐生織物の創生期だったと言えます。

昭和に入ると初期に大恐慌が起こりますが先人達の力に支えられ大ダメージを受けることはありませんでした。桐生織物会館の新築落成等の明るいニュースもありました。大戦が終わり戦後になると、朝鮮動乱の復興気、繊維の業

散拡散期、他産業の興隆、振興期を迎えたわけですが、織物で積み上げた繊細な技術で乗りきりました。しかし、織物業の現状を見ると出荷額比十六・十七%、労働率約四十%など数字からしても大転換を迎えています。

二十一世紀の繊維産業「新興隆期」を目指して桐生織物の良さを再発見する時期に差しかかっています。そこで、私達は地球にやさしい産業である繊維産業を中心にすばらしい「ファッションタウン桐生」を築いて行こうと考えています。桐生人が織物の伝統・功績に誇りを持ち続け、桐生の街、故郷の街が住み良い街になることを願って……。



第6回桐生高工

親善ゴルフ大会

日時 平成9年8月20日(水)

場所 赤城カントリー倶楽部

今年で6回となった親善ゴ

ルフ大会は、遠く静岡県から

参加していただいたお2人を

まじえ、団体戦は18チームに

なり総数149名で熱戦が展

開された。

団体戦成績 (平均ネット)

優勝 川内支部 (72・36)

2位 広沢支部 (73・04)

3位 堤支部 (73・12)

4位 東支部 (73・48)

5位 6・10支部 (73・56)

6位 足利・静岡 (73・68)

7位 大岡々支部 (73・96)

8位 4・5支部 (74・2)

9位 本田・館林新重 (74・2)

10位 相生支部 (74・28)

11位 梅田支部 (74・4)

12位 藪塚支部 (74・76)

13位 笠懸支部 (74・76)

14位 境野支部 (74・92)

15位 前橋・本部 (74・92)

16位 加藤鉄工 (75・24)

17位 1・2・9支部 (75・44)

18位 埼玉支部 (75・72)

以上、川内チームが5人の

ネット平均(72・36)で見事に初優勝しました。



優勝の挨拶をする川内チーム

個人戦の部

優勝 前原 廣光42E(69・0)

2位 石原 文男42E(69・8)

3位 小保方英見43A(70・8)

4位 坂本 実30M(71・0)

5位 柴塚 政巳33M(71・2)

6位 井沢 一彦49W(71・2)

7位 関谷 孝57W(71・2)

8位 田島光一郎35E(71・4)

9位 高草木栄一33M(71・6)

10位 石原 輝一37E(71・6)

ベストクロス賞は、団体優勝チームの石原文男さん。

シニアベストクロス賞は太田市の坂本実さん。

ドラゴン賞

安蔵達也57C・安蔵浩樹54E(2ホール)・二渡富雄54C

シニアドラゴン賞

高草木喜一30M・杉戸清二28M(2ホール)・坂本実30M

ニアピン賞

石原正弘56D・高草木敏夫38M・柴塚政巳33M・伊藤久夫41W・津久井孝充44W・小野田正司43M・岡子田公一29W・新井一博39W以上のみなさんでした。



個人優勝の前原廣光さん

表彰式は、赤城カントリーの倶楽部ハウスで行なわれ、昔なつかしい応援団団旗の前でそれぞれ賞品の授与が行なわれました。

最後には、元応援団員の内藤一美さんによるエールの後全員で校歌を合唱して閉会となりました。

以下、プレー中のみなさんのスナップを掲載し、来年の再会をお約束いたします。



気持ちイネ～!!



ナイス!! チョット!?



チヨットヤスミ

校歌って何んでこんなにイイの～!!



応援団長 内藤一美さん



エスカレーターでハイポーズ

早く打って!!



毎年、準備ありがとうございます



数年後に架け替えられる錦桜橋
(大正14・昭和27年架設)

渡良瀬川、桐生川、新川の橋
()は今は無い橋と渡船場

桐生の主な川と橋



桐生

だより

新企画



架け替え工事中の赤岩橋
(昭和16年7月架設)

昭和橋
(昭和16年12月架設)



旧カニ川 (JR桐生駅前)



コロンバス通り
(旧新川)



新川公園
(旧新川球場)

学校だより

ニュージールランド 短期留学

電気科 諏訪淳一

平成九年度ニュージールランド短期留学は、今回で三回目の参加となります。今年度は、高工より十三名・安美より二名・桐工より八名の参加で、生徒二十名と引率職員三名で合計二十三名の訪問団でした。日程は、昨年度とほぼ同じで、七月二十一日から八月二日の十三日間で実施されました。

今回の訪問日程の前半は、ホームステイ先からローズヒル・カレッジに通学し、ローズヒル校の一人として授業に出席しました。片言の英語を駆使しながらホストスチューデントを含め、多くの生徒や先生と意志の疎通を計ることができました。また、私も同校の先生宅にホームステイし、授業や学校施設などを見学させていただきました。

後半の研修旅行では、羊の

毛狩りシヨールやマオリコンサート、ワカレワレワの間欠泉やフカ滝の見学、中でもワイトモ鍾乳洞の土ボタルなどは非常に神秘的でした。また、オークランド市内では博物館やシヨッピングも楽しみました。

このように桐工第二回ニュージールランド訪問は、自然、文化、伝統や生活などの人間性に触れる事ができ、国際交流事業の大きな役割を果たすことができたのではないかと思います。

最後に、校長先生をはじめ、多くの先生方や同窓会の方々に感謝申し上げ報告いたします。

中国訪問

染色デザイン科

岡部政雄

八月二十日から二十六日まで七日間、佐藤、岡部で中国の四川省紡織高等专科学校と江蘇省常州紡織工業高校の

二つの紡織高等专科学校と染色工場数カ所を見学してきました。二つの学校とも生徒数は多く常州は全寮制でした。夏休みで授業は見られませんが、作品等を見ると生徒のやる気と忍耐力をひしひしと感じました。織工場は紡績から製織まで行っている織機は三百台位ありましたが、中には日本製もあり簡単な組織の織物でした。織物の土産品を見ると何らかの欠点があり、満足できるものは少なかった。広大な土地、工業、教育などを考えると中国はすごい速さで進展している感があります。

定時制の現況

定時制教頭

齊藤芳國

今年、わが国の高等学校は定時制通信制教育が昭和23年に学制改革により発足以来、50周年を迎える節目の年に当たります。

本校の定時制課程は、同窓生の皆様はご承知のとおり、昭和19年に設置された夜間課程の第2本科・機械科をその源とし、昭和21年に染織科が増科されましたが、上述のように昭和23年そのまま定時制課程に改められました。

の募集をとりやめ、昭和51年3月に繊維科最後の卒業生を送り出した後は、機械科・電気科の2字級となり、ついに平成8年には残っていた機械科と電気科の募集をとりやめ、新たに工業技術科1字級を設置することとなりました。

以上が定時制課程の変遷の概略ですが、平成9年4月現在1・2年生は工業技術科、3・4年生は機械科・電気科で総計64名が学んでおります。さて、その生徒の活躍ぶりですが、桐雷第7号に平成6・7年度のクラブ活動の一端が既載済ですので、その後に

その後、昭和37年には電気科が設立され、昭和45年には染織科がそのまま繊維科へと名称変更したが、織都でありながらも製造業が徐々に勃興していくなか、最盛時には1学年3学級、500名を越える生徒が在籍する真に地域社会の勤労青少年に対する教育の場として、大きな役割を果たしてきましたが、ご承知のとおりその後の経済の飛躍的な発展と諸々の社会情勢の変遷とともに、入学者が減少の一途をたどり、昭和49年には繊維科

が既載済ですので、その後について述べますと、その少ない生徒の平成8年度電気科3年生が、危険物取扱者試験で乙種第1～6類の全ての類に合格する快挙をなしとげました。また桐生地区高等学校定時制通信制生活体験発表大会でも堂々第1位となり、同県大会でも3位に入賞するなど、これらの活躍によって年度末には群馬県の全定を併せた工業科で学ぶ全生徒の中から、唯一人全国工業高等学校長協会より表彰されました。

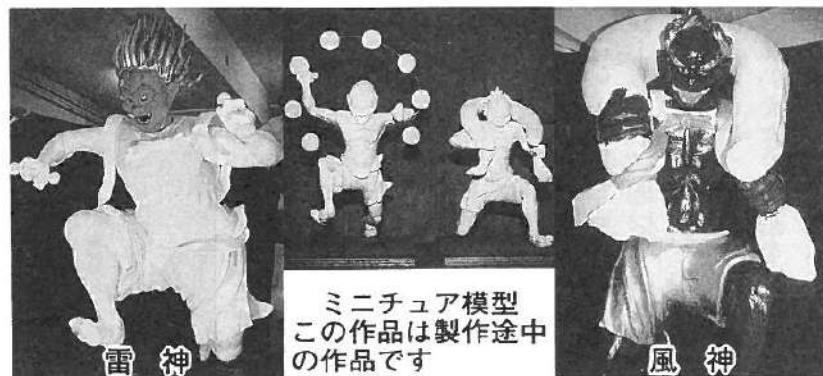


スポーツ面では生徒の減少とともに団体競技の編成に苦しみ中、バスケット部が県内大会で気をはいています。が、柔道部は個人戦ながらも平成7年度以降3年連続全国大会に出場するなど活躍しております。

さて、2年後には工業技術科のみとなり、更に生徒数の減少が避けられない中、定時制の将来を考えていく場合、これまでのように勤労青少年に対する教育機関としての役割だけにとどまらず、教育機会の拡大や生涯学習の推進の観点から、専科生の受入れや一度退学したものの再度高校での学習を希望する者などの受入れなど、定時制の在り方までに踏み込んだ改善・検討が必要と考えています。

全国産業教育 大型プロジェクト

十一月十三日から十六日までの四日間、第七回全国産業教育フェアが前橋で開催され、本校からは群馬の目玉として大型プロジェクト『風神』『雷神』像を出品しました。



模型製作途中
アチュは
ニチュは
ミの作品
この作品

二つの大型像は京都の三十三間堂のものをモデルに製作したもので、台座からの高さが3.5メートル、電動式で首や腕、胸が動く、ハイテク像です。製作は、骨格を機械科、制御部分を電気科、像の部分は『風神』を建築科が『雷神』は土木科が担当しました。尚、目の不自由な方のため、手で触れることの出来る小型の像を染織デザイン科が制作しました。

事務局だより

中部・静岡県支部設立まで

今年二月中部支部(三重・愛知・岐阜・富山・福井・石川県)、四月に静岡県支部が誕生致しました。

二支部は、関西支部長 今井嘉吉氏・副支部長 山口多賀司氏(非破壊検査株式会社社長) 事務局長 宮根賢毅氏(破壊検査秘書室長)のご尽力により誕生致しました。

昨年七月関係会員全員にアンケート等を配布、地域のご意見を頂きながら基本構想を決定させて頂き、発起人の方々と調整されました。

宮根氏は、中部代表 蟹江光正氏(春日井市) 静岡代表 大沢房次郎氏・高草木敏夫氏(焼津市)を訪問され詳細な協議をして頂きました。

今井氏と大沢氏は同級生で硬式野球部も一緒と気心も分かり和える仲間と関係が素晴らしいかっただです。

関係されました各位の物心両面のご協力に對しまして衷心より感謝申し上げます。益々のご発展をご祈念申し上げます。

作曲家誕生!!

キングレコードより新曲

「相川橋」が十一月中旬発売

32 D 卒 長島恒雄氏

本業は、国道50号前橋市東大室で「レストラン柳ヶ瀬」経営「荒砥川情歌」ピクチャーに続き二作目と伺いました。

渡良瀬川に架かる相川橋をテーマにした若人の恋愛物語で、桐生市菱町在住の板倉撰子先生が作詞され、長島さんが作曲された作品で、「あの日あなたと出逢った橋を夢と一緒に渡ります」と言う唄い出しで始まる演歌で、誰にでも一二度は人生の想い出に経験された事と思います。

唄いやすい歌です桐生の皆様にご当地ソングとして沢山の方々にお愛されます様お願い申し上げます。(本人談)

事務局担当変更

総務部長 百海 晃弘
会計部長 大澤 秀夫
組織部長 岡部 政雄
編集部長 上石 賢一
四月より右記の様に変更になりました宜しくお願ひ申し上げます。

編集後記

年一回の定期便として定着した同窓会報「桐雷」も、同窓諸氏の協力により第9号を発行することができました。今号では、特集第3弾として最近次々と誕生している県外支部を中心に編集してみました。

県外支部のトップは埼玉県で、次に現在栃木県支部への移行を進めている足利支部。隣接県を統括して誕生した関西支部。三重、愛知、岐阜、福井、石川、富山と本土を横断した中部支部。さらに、静岡県支部とそれぞれ意欲的に結成されてきました。

やがて、全国津々浦々に組織され全国大会、関東プロック大会等、ゴルフや他のいろいろな催しによる会員の交流が、実現することを期待しております。

また平成九年度の総会は、五月にオープンした桐生市市民文化会館スカイホールで開催されました。

県外からも参加し、大いに盛りあがりました。T・K記